

社協ボラセンは「地域」にとって良きパートナーたり得るか

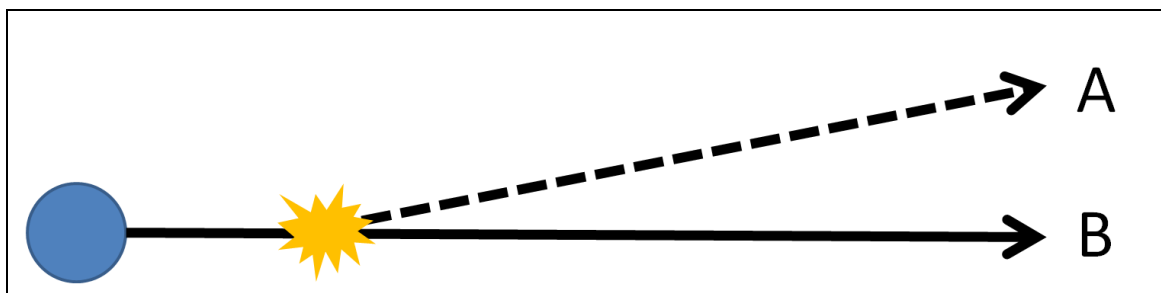
三島コミュニティ・アクションネットワーク 室田信一

0. 前提として確認しておくべきこと

- ・ 社協ボラセンは一括できない
- ・ ボランティアコーディネーターも多様である
- ・ 関西のボラセン文化

1. M-CAN におけるボラセン機能

- ・ M-CAN の主な活動 → セツルメントそのもの
- ・ 「想い」によって支えられる活動 → その「想い」はどこから来るのか
- ・ 「新しい社会運動」の一側面 → 新たな「変革」の担い手



- ・ 地域の「困った」が出发点 → みんなが「何かできないものか」と思っている
- ・ カスタムメイドのボランティア活動 → ミクロ実践からマクロ実践までの連続
- ・ 次のステップへ → 人材育成の拠点として (e.g. 「社会起業家セミナー」)

2. 社協ボラセンと一緒に進めたいこと

- ・ 小地域の活動を活性化したい → ボラセン＝ムーブメントの拠点
- ・ 新しい市民活動の文化を創りだしたい → ボラセン＝人材開発の拠点
- ・ 企業への売り込み → ボラセン＝情報発信／共有の拠点

- ・ そもそも社協ボラセンはどこかに向かおうとしているのか？